

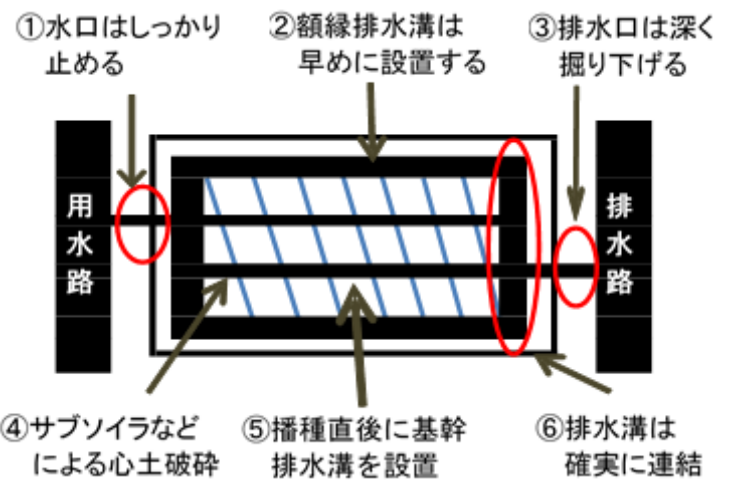
大麦特報 第1号

早めの排水対策、土づくり及び10月上旬までの適期播種等の基本技術の徹底により、適正苗立数を確保し、高収量・高品質な大麦を生産しましょう！

1 排水対策の徹底

…稲刈後、速やかに額縁排水溝を設置！

- 稲刈後、幅30cm、深さ20cm以上の額縁排水溝を設置し、確実に排水口へ連結しましょう。
- 碎土率を上げるために、耕起・播種前までに十分にほ場を乾かしましょう。



2 土づくり・基肥

…大麦はpH6.0～6.5が最適

- マグフミン(粒)は、10a当たり100kg以上を耕起前に施用し、pH 6.0～6.5を確保しましょう。また、堆肥等有機物も積極的に施用しましょう。
- 基肥は、Jコート大麦48号で10a当たり45kg程度を基本に、地力に応じて施用しましょう。

※R4年産からLP大麦48号がJコート大麦48号へ変わります。

3 適正な播種

…播種は9月末～10月上旬を中心に

※水稻や大豆の収穫・乾燥調製作業との競合が予想される場合は、大麦の播種が遅れないよう、事前に調整しましょう。

○種子消毒

- ・雲形病等の発生を防ぐため、種子消毒は必ず行ってください。「ベンレートT水和剤20」を、乾燥種子重量の0.5%湿粉衣(乾燥種子10kg当たり、200mlの水を加えて、薬剤50gを均一に混ぜる)しましょう。

○播種作業

- ・播種は、必ずほ場が乾いた状態で行い、耕起・播種・作溝の一連の作業は、1日で完了させましょう。
- ・トラクターの速度は低速にし、碎土率60%以上を確保しましょう。
- ・除草剤を的確に使用し、生育量を確保しましょう(表1)。

碎土率40%以下



碎土率が低いと
出芽・苗立ちが不安定
除草剤の効果が劣る

碎土率60%以上



碎土率が高いと
出芽・苗立ちが安定
除草剤の効果が高い

表1 雑草防除 (ドリル播き限定)

除草剤名	使用量(10a当たり)	使用時期
トレファノサイド粒剤2.5	4～5kg	播種後出芽前
トレファノサイド乳剤	200～300ml (希釈水量100ℓ)	播種後出芽前

【使用上の注意】

- ・種子が露出していると薬害が生じるおそれがあるので、播種深度3cm程度を目安に確実に覆土しましょう。
- ・散布直後に多量の降雨が予想される場合は散布を控えましょう。

○播種量の目安

- ・播種時期・播種方法に応じた播種量で目標苗立数を確保しましょう(表2)。
- ・ドリル播きは、深播きにすると出芽揃いが遅れ、分けつの発生率が低下します。
- ・播種の深さは3cm程度に設定してください。

表2 目標苗立数と播種量の目安

播種期	目標苗立数 (本/m ²)	播種量の目安(10a当たり)
		ドリル播き
9月25～30日	140	6.0kg
10月上旬	150	6.5kg
10月中旬	200	8.5kg

○播種後の排水対策

- ・3～4mに1本の割合で、幅30cm、深さ20cm以上の基幹排水溝を設置しましょう。
- ・基幹排水溝と額縁排水溝は確実に連結し、雨水が流れるように連結しましょう。

<秋の農作業安全運動(8月20日～10月20日)実施中>